

付属資料

- 1 まちづくり懇談会
- 2 塩竈市海と社の景観審議会
- 3 塩竈市都市計画審議会
- 4 都市景観推進委員会
- 5 庁内ワーキンググループ
- 6 塩竈市景観シンポジウム
- 7 用語集
- 8 塩竈景観資源マップ
- 9 浦戸景観資源マップ
- 10 塩竈歴史地形マップ
- 11 鹽竈海道まち歩きマップ
- 12 歌に詠まれた塩竈の風景



1 まちづくり懇談会

まちづくり懇談会での市民からの意見

(1) 平成26年度第1回まちづくり懇談会

- ・重点地区候補の名称が「中央地区」、「駅前周辺地区」など堅いので、「門前町地区」などの柔らかい表現にしたほうがよいのではないか。
- ・住民の意見を審議会に届ける場を体制図に位置づける必要がある。
- ・市民が景観に対するビジョンや価値を持つことが重要になる。
- ・守るべき景観は徹底的に維持していくことが必要だと思う。



平成27年度第1回まちづくり懇談会

(2) 平成26年度第2回まちづくり懇談会

- ・景観計画は長期総合計画や震災復興計画と一体化した計画として、経済効果や活性化を生み出すような計画づくり、まちづくりをすべきではないか。
- ・身近な美化活動等の市民運動の関わりが、景観形成には重要であると思う。
- ・景観づくりには地域との対話が重要であるため、市民力を生かしながら進めるべきである。
- ・継続的に景観を守る主体は住民である。一方で市が情報公開することも大切である。

(3) 平成27年度第1回まちづくり懇談会

- ・建造物、樹木を守る際は人の力が必要で、教育、チーム作り、経済的な面も考える必要がある。
- ・地域の人達が望む植樹がされるよう、法的な根拠や具体的な事例について教えてほしいと思う。
- ・地域住民が自分たちで学び、話をするのが重要である。
- ・実際にまちを歩いて建物や樹木の良さを知り、子どもたちに教えることが大切である。
- ・塩竈の景観づくりにおいて7つの重要な要素から考えていくことが必要である。
 - ①地域情報の共有 ②メンテナンスマネジメント ③財源
 - ④地域の人たちによる制度づくり ⑤地域のものを大切にする価値観 ⑥協働 ⑦教育

(4) 平成27年度第2回まちづくり懇談会

- ・市民組織や事業者の活動を載せることが、関心の向上につながると思う。
- ・景観重要建造物や樹木の候補等を工夫してPRしていくことで景観への関心が高まると思う。
- ・学校教育だけでなく、町内会などでの生涯学習も大切である。
- ・市民が景観を守るためにできることなど、行動に結びつけるハンドブックなどがあると良い。



眺望景観の確認

まちづくり懇談会参加団体（敬称略）

分野	団体名	出席者等
市民活動団体	まちづくり	阿子島徳裕 武田 和浩、 針生 清悦
	まちづくり	熊谷 典久
	観光	高橋幸三郎、 菊池 千尋
	観光	丹野六右衛門
	歴史・文化	土見 大介
	浦戸	大津 晃一
	美術	庄子 文康
	福祉	佐々木和恵
	福祉・子育て	鈴木佐久子
	東部地区	榊原 久康
町内会活動	西部地区	土井 萬平
	南部地区	阿部 邦彦
	北部地区	小野 正志
	浦戸地区	鈴木 虎男、 内海 桑蔵
	塩釜駅	鈴木 喜勝
駅	塩釜駅	JR東日本 本塩釜駅・塩釜駅
講師	学識経験者	宮城大学事業構想学部 教授 風見 正三

まちづくり懇談会開催状況

開催年月日	会議名	主な内容
平成26年10月30日	平成26年度 第1回まちづくり懇談会	・景観計画の取り組みについての説明 ・景観に関する市民意見聴取
平成27年1月15日	平成26年度 第2回まちづくり懇談会	・市民提案による意見交換
平成27年4月9日	平成27年度 第1回まちづくり懇談会	・計画全体の概要説明 ・景観重要建造物、樹木についての市民提案
平成27年11月13日	平成28年度 第2回まちづくり懇談会	・計画全体についての意見交換

2 塩竈市海と社の景観審議会

委員名簿 (敬称略)

◎ 会長

	分野	氏名	勤務先等
学識経験者	都市計画	◎ 風見正三	宮城大学事業構想学部教授
	建築・文化	大沼正寛	東北工業大学ライフデザイン学部教授
	歴史・市民協働	佐々木秀之	宮城大学事業構想学部准教授
市内関係団体	建築	土井儀憲	宮城県建築士会まつしま支部 土井建築設計事務所
	文化財	小野道教	志波彦神社・鹽竈神社禰宜
	まちづくり	坂井盾二	塩釜さくらの会会長 三恵商事(株)
	美術	高田彩	仙台湾燻蒸(株) ビルド・フルーガス
市民	市民	佐浦弘一	(株)佐浦

審議会開催状況

開催年月日	会議名	主な内容
平成26年10月10日	平成26年度 第1回 塩竈市海と社の景観審議会	・現況、今後の進め方について ・計画の構成について
平成26年12月9日	平成26年度 第2回 塩竈市海と社の景観審議会	・景観形成の方針について ・景観重要地区について
平成27年1月30日	平成26年度 第3回 塩竈市海と社の景観審議会	・行為の制限に関する事項について ・景観形成の推進方策について
平成27年3月13日	平成26年度 第4回 塩竈市海と社の景観審議会	・景観重要建造物、樹木について ・景観形成の推進方策について
平成27年10月23日	平成27年度 第1回 塩竈市海と社の景観審議会	・景観計画全体の内容確認について ・景観形成地区の追加について
平成28年2月18日	平成27年度 第2回 塩竈市海と社の景観審議会	・景観計画全体の内容確認について

3 塩竈市都市計画審議会

委員名簿 第12回都市計画審議会開催時点（敬称略） 開催日：平成26年12月2日
◎会長

	分野	氏名	勤務先等
学識・有識者	建築	岩井 紘子	(有)岩井紘子建築設計事務所
	都市計画	姥浦 道生	東北大学大学院准教授
	法律	坂野 智憲	仙台弁護士会会員 弁護士(坂野法律事務所)
	商工経済	佐藤 仁一郎	塩釜商工会議所常議員 (株)ごんきや
	歴史	庄子 洋子	郷土史研究家
	商工経済	鈴木 信弘	塩竈市水産振興協議会理事 ヤットハチ鈴木水産(株)
	建築	土井 儀憲	土井建築設計事務所
	自然環境	◎盛合 禧夫	東北工業大学名誉教授
市議会	市議会議員	伊勢 由典	塩竈市議会議員
		小野 幸男	塩竈市議会議員
		香取 嗣雄	塩竈市議会議員
		佐藤 英治	塩竈市議会議員
		志賀 勝利	塩竈市議会議員
県	県職員	鷺巢 俊之	宮城県仙台土木事務所長
市民	市民	田中 まゆみ	塩竈市立玉川小学校 元校長

委員名簿 第13回都市計画審議会開催時点（敬称略） 開催日：平成27年11月27日
◎会長

	分野	氏名	勤務先等
学識・有識者	建築	岩井 紘子	(有)岩井紘子建築設計事務所
	都市計画	姥浦 道生	東北大学大学院准教授
	法律	坂野 智憲	仙台弁護士会会員 弁護士(坂野法律事務所)
	商工経済	佐藤 仁一郎	塩釜商工会議所常議員 (株)ごんきや
	歴史	庄子 洋子	郷土史研究家
	商工経済	鈴木 信弘	塩竈市水産振興協議会理事 ヤットハチ鈴木水産(株)
	建築	土井 儀憲	土井建築設計事務所
	自然環境	◎盛合 禧夫	東北工業大学名誉教授
市議会	市議会議員	浅野 敏江	塩竈市議会議員
		伊勢 由典	塩竈市議会議員
		今野 恭一	塩竈市議会議員
		土見 大介	塩竈市議会議員
		山本 進	塩竈市議会議員
県	県職員	門傳 淳	宮城県仙台土木事務所長
市民	市民	田中 まゆみ	塩竈市立玉川小学校 元校長

4 都市景観推進委員会

都市景観推進委員

	職 名	氏 名	備 考
委員長	市 長	佐藤 昭	
副委員長	副 市 長	内形 繁夫	
委員	教 育 長	高橋 睦磨	
	市民総務部長	神谷 統	
	政策調整監	福田 文弘	～平成27年3月31日
		佐藤 修一	平成27年4月1日～
	健康福祉部長	桜井 史裕	
	産業環境部長	小山 浩幸	
	建 設 部 長	鈴木 正彦	～平成27年3月31日
		阿部 徳和	平成27年4月1日～
	建設部・震災復興推進局技監	熊谷 滋雄	平成27年4月1日～
	震災復興推進局長	荒井 敏明	
	市立病院事務部長	伊藤 喜昭	
	水 道 部 長	佐藤 信彦	～平成27年3月31日
		赤間 忠良	平成27年4月1日～
	教 育 部 長	菅原 靖彦	
	危機管理監	鈴木 正信	
	市民総務部 総務課長	高橋 敏也	～平成27年3月31日
		佐藤 俊幸	平成27年4月1日～
	〃 政策課長	川村 淳	
	〃 財政課長	阿部 徳和	～平成27年3月31日
		末永 量太	平成27年4月1日～

都市景観推進委員会開催状況

開催年月日	会議名	主な内容
平成26年8月4日	第1回都市景観推進委員会	・現況、今後の進め方について説明
平成27年1月20日	第2回都市景観推進委員会	・計画案の中間報告
平成28年2月2日	第3回都市景観推進委員会	・計画素案の審議

5 庁内ワーキンググループ

庁内ワーキンググループ職員

所属・職名	氏 名	備 考
市民総務部 政策課長	川村 淳	
市民総務部 財政課長	阿部 徳和	～平成27年3月31日
	末永 量太	平成27年4月1日～
健康福祉部 子育て支援課長	木村 雅之	
産業環境部 水産振興課長	佐藤 俊幸	～平成27年3月31日
	並木 新司	平成27年4月1日～
〃 商工港湾課長	佐藤 修一	～平成27年3月31日
〃 環境課長	佐藤 達也	平成27年4月1日～
〃 観光交流課長	菊池 有司	
〃 浦戸振興課長	本多 裕之	～平成27年3月31日
建設部 都市計画課長	吉岡 一浩	平成27年4月1日～
〃 定住促進課長	草野 弘一	
〃 土木課長	阿部 光浩	
〃 下水道課長	佐々木 誠	
復興推進局 復興推進課長	赤間 忠良	～平成27年3月31日
	本多 裕之	平成27年4月1日～
	佐藤 寛之	
	佐藤 達也	～平成27年3月31日
	鈴木 康則	平成27年4月1日～
教育部 生涯学習課長	渡辺 常幸	～平成27年3月31日
	本田 幹枝	平成27年4月1日～

庁内ワーキンググループ開催状況

開催年月日	会議名	主な内容
平成26年8月28日	第1回庁内ワーキンググループ	・計画の構成について
平成26年11月25日	第2回庁内ワーキンググループ	・景観形成の方針について ・景観重要地区について
平成27年1月20日	第3回庁内ワーキンググループ	・行為の制限に関する事項について ・景観形成の推進方策について
平成27年2月25日	第4回庁内ワーキンググループ	・景観形成建造物、樹木について ・景観形成の推進方策について
平成27年12月22日	第5回庁内ワーキンググループ	・景観計画の策定状況について

6 塩竈市景観シンポジウム

テーマ：海と社が織りなす塩竈の美しい未来～地域に根ざした景観まちづくり～

(1)開催日時及び場所

日 時 平成27年8月1日(土) 13:00～16:00

場 所 ①プレイベント(またなの岡眺望見学会) 志波彦神社境内～鹽竈神社博物館

②シンポジウム 志波彦神社 鹽竈神社大講堂

(2)主催・協力・後援

主 催 塩竈市

協 力 志波彦神社 鹽竈神社

ケーブルテレビマリネット

後 援 宮城県、塩釜商工会議所

(3)一般参加者 89名

(4)次 第

①プレイベント

またなの岡眺望見学会 13:00～13:30

②景観計画概要説明

13:50～14:00

③シンポジウム

14:00～16:10

開 会

挨 拶

塩竈市長 佐藤 昭

志波彦神社 鹽竈神社宮司 鍵 三夫 氏

基調講演

宮城大学事業構想学部教授 風見 正三 氏

演 題「地域の風景を未来につなぐ～社会的共通資本としての景観～」

パネルディスカッション

テーマ「地域に根ざした景観まちづくり」

コーディネーター

風見 正三 氏 宮城大学事業構想学部教授

パネリスト

大沼 正寛 氏 東北工業大学ライフデザイン学部准教授

土井 儀憲 氏 一般社団法人宮城県建築士会まつしま支部長

小野 道教 氏 志波彦神社 鹽竈神社権禰宜

高田 彩 氏 ビルド・フルーガス代表



プレイベント



景観シンポジウム

(5) 内容、主な意見

基調講演 「地域の風景を未来につなぐ～社会的共通資本としての景観～」

●景観を守ること

○まさに市民の役割です。塩竈市は、「海と社の景観審議会」を立ち上げ、景観のまちづくりを始めており、この流れに市民も関わっていただきたい。景観を守るため何ができるのか、また、地域の風景をどう創造していくのかを審議会で議論しています。



風見教授あいさつ

○「景観・風景・風土とはなにか」が大きなテーマです。「景観十年、風景百年、風土千年」と言われ、日本は歴史があり、それに目をむけることも大事です。「地域の景観を未来につなぐ」とは、社会的共通資本としての市民の財産である原風景をどう残していくのかということです。持続可能な地域は、将来を見据えたシナリオづくりです。市民が、いかに政策に意見を出しているかが問われます。景観まちづくりも、市民意見を取り入れてやっています。

○街並みと海と森が織り成すシルエットが塩竈市の特長です。景観は、長い歴史の中で人と自然が織りなしてきたものです。亀井邸の模型(昔の塩竈)はとても素晴らしい。原点の風景は、大事にする必要があります。また、塩竈市杉村惇美術館も、素晴らしい木造アーチの日本有数の建築です。しかし、皆さんが見てないと、いつのまにか失われてしまう場合もあります。



基調講演

○欧州では「壊すのに理由がいる」、日本は「残すのに理由がいる」と言われています。大事な風景は、皆さんが愛さない限り残されない、ことが今日のテーマです。ぜひ、塩竈の景観を考え聴いていただきたい。

●景観まちづくりの事例紹介

・香川県丸亀市は、単に古い景観を残すのではなく、商店主がイタリアのドーム広場を真似た商店街を作りました。行政ではなく市民が考えました。景観まちづくりは、行政のまちづくりではなく、皆さんと共に創るまちづくりです。

・岐阜県飛騨市の古川は、白壁土蔵があり、景観を守るため商店主が主体で自主条例を作りました。行政が動く前に、愛する人たちが行動したからです。市民の発議がこれからの潮流であり、市民の目線でまちを、皆を動かしていく時代になっています。

・滋賀県長浜市は、黒壁を活かしまちづくりを発展させ、年間300万人の交流人口を創出しています。

○ビジョンを共有し皆で力を尽すことが重要で、これが市民発議のまちづくりです。市民主体でものを考え、行政と一緒にしていくことにより風景はできる。行政だけではできないことを申し上げます。

●震災復興について

○震災を転換点にして日本を変える必要があります。東北の潜在力や地域コミュニティの強い絆など国民の連帯を含めて復興していきます。それは、地域でしっかりとした将来性のある未来を創っていくことです。東北の強いコミュニティの力が、復興に重要であると政府も位置付けています。

○震災復興でコミュニティの理念などを講義し、まちづくりに携わる人を創るため「フラスコイノベーションスクール」を設置しました。塩竈市では、千賀の浦を守る「チガノウラカゼコミュニティ」の津川さんが努力されておりこの前、県に表彰されました。



スライドを使った事例紹介

○復興5年目となり、東京オリンピックが5年後にあることから、政府は震災復興から地方創生になっている。そのためには、モデルが必要であり、塩竈も多くのモデルを創って、披露していくことになる。景観まちづくりも同様です。塩竈大好きな人が多いことから、それらの人々がまちづくりに携わって欲しい。

●まちづくりと都市の持続可能性

○重要なことは、産業や情報、福祉、医療、都市計画などですが、今まではバラバラだったので、地域循環型の産業にするための連結が大事です。また、地域の人が結束することにより、求心力となります。

○これから大事なのは、インフラも含めた都市のマネジメントと自治力です。自治会やコミュニティなど、地元の産業と自分たちの力を結束できるか。最終的には、食糧や水、エネルギーなどを地域でガバナンス、責任を持ち管理していくことにより21世紀が見えてきます。



熱心に聴講する参加者

○結論は、持続可能性を自分の代だけで終わらせない。次の世代に余力を残して、次の人たちが幸せに生きるための社会を新たににつくっているか、という世代間の継承です。地域が結束して、地域資源を理解して将来を見ていくことです。

●社会的共通資本と景観

○景観を見れば、そのまちが何を大事にしているかは、一目瞭然です。例えば、本棚を見るとその人が分かるように、景観も一緒です。

○キーワードは「社会的共通資本」で、三つの要素から成立しています。まず、「自然」があり、その上に相応しい「インフラ」が維持され、それを「コミュニティ」でみていくのが大事で、コミュニティガバナンスといいます。コミュニティが自らのまちの財産を管理するのが一番正しいことです。

○歴史や文化、産業などが培われて地域の資源、風景をつくっています。地元食材や工芸品を購入

し、地元の建築物を支援していくことが、風景をつくっている。景観を創る、守るということは、実は産業を守ることです。

○例えば、自宅から1 m外れた所のゴミを拾わない人はいません。それを拡大し、地域全体が我々のまちだと考えれば、必然と良いまちになります。景観を守ることは、行政だけではなく、それを担う産業や一人ひとりの市民が立ち上がる事が重要です。

全体で見た時に「景観がどうなるか」と皆さんが関心を持ち、どんなまちを創って欲しいのか、自分のまちを考えて欲しいです。



風見教授の講演

○塩竈市には数多くの資源があります。それをつないでいくことにより、さらにまちづくりが強化されます。資源から物語を生み出していくことはとても大事です。

●まちづくりの事例紹介

○大崎市の中心市街地復興まちづくり・ラムサール条約の登録地である蕪栗沼の湿地

- ・まちなかの再生を掲げランドデザインが描かれ、スタートする段階です。大崎市の七日町商店街に路地を整備して、回遊性を向上、醸室(かむろ)の蔵造資源の再生、緒絶(おだえ)川の整備、大崎市役所の移転と観光拠点化です。
- ・災害公営住宅を七日町に造り、人を呼び込む作戦を立て、同時に、宮城大学の学生も入ったワークショップに、高校生も参加して、まちなかを考えてもらう会にしました。
- ・景観を守るために農業を守る必要があります。農業を守らなければ、水田が無くなることから、絵本作家の葉祥明(ようしょうめい)さんの「渡り鳥からのメッセージ」という絵本プロデュースをしました。

○東松島市の「森の学校」のプロジェクト

- ・東松島市の小学校の高台移転に関わっています。震災後、C・W・ニコルさんの協力により、彼の長野県の家にご子供たちを連れて行き、元気になり、心の復興が図られました。それで、自然とともに生き、森の英知を学ぶ「森の学校」を創ることになりました。地域で子供を育て、地域と共に生きる学校。炭焼きやキノコ採りの名人などが教える学校です。

●結論

○森の再生は、実は地域の再生であることから、つながりを再構築し、地域資源を見出し、コミュニティが育てて、持続化するためには、産業にならないといけない。皆がボランティアだと疲れてしまいます。そこを、一緒に考えて欲しいというのが、私からのメッセージです。

○プレイベントで神社から観たように、まず「地域を知る」ことが大事です。次に、「地域をみんなで創っていく」こと、つまりマーケティングやプロジェクトを創ることです。そして、未来永劫続くよう「地域を育む」ことを市民の力でやっていく。この三つを皆さんと一緒にしていきたい。共通のビジョンを持ち、地域をみんなで知り、まち歩きをして、皆でプランを描いて創っていくことが一番正しい姿です。

○コミュニティの皆さんが「この地域の景観を守る」という意識をプラットフォームとし、関係性を創っていく。景観は十年ですが、風景は百年、千年は風土になります。塩竈市は、景観審議会が始まり動いておりますので、地域の風景を取り戻す「景観まちづくり元年」として頑張っていきます。

○「これからの塩竈の景観を創るのは皆さんだ」という想いで、この後、シンポジウムに入っていただければ。また、シンポジウムの中で皆さんのご意見も聴きながら進めていきます。

パネルディスカッション

●パネリストから自己紹介

【大沼准教授】

○建物設計や保存・再生など、文化財的なものを修復する現場で動いています。鹽竈神社の参道周辺は、乾いた景観という印象で、どう潤いを満たしていくか。景観を期待して来た人に、十分満足できるものか。今後、やるべきことがあると考えています。



大沼准教授

○今までは、誰かに任せて気が付いたら出来ていることが多かった。これからは、皆さんがどう意見や考えを出していくか。創る現場に対して、関わる市民は見つける主体であり、見つけたものを出来るところまで組み立て、そこにプロを呼ぶこと。市民目線の取り込みや仕組みが景観づくりの重要なポイントです。

【風見教授】

○大沼先生は、地域や郷土建築家として、地域の文脈を大事にしています。塩竈市の重要な建築、景観まちづくりのキーマンになって欲しい方です。

【土井氏】

○建物の高さを規制する「塩竈の景観を守り育てる条例」がありますが、これは、市民活動から条例ができました。平成2年、新聞に神社からの眺望を遮る建物、景観が危ういとの記事が掲載されました。当時、景観の部署はなく、建築中止は出来ませんが、眺望を遮る建物を規制する方法を模索しました。

○その後、市長への投書や市職員の協力などにより、賛同者を集い「千賀の浦を守る会」が平成3年2月に設立され、方針や活動方法を検討しました。署名活動では、神社境内2千、市内1万、合計1万2千名となり、眺望を大切にして親しんでいる市民が多いことを認識しました。また、事務局に苦情の電話はなく、賛同の電話が若干ありました。



土井氏

○当時の市長に陳情後、市役所に景観対策のプロジェクトチームが発足し、条例が平成5年に成立しました。条例の骨子は、10m超の建物計画に際し、景観に配慮しているか。二つ目は、神社境内から海を臨んだ高さ20m超の建物計画に、市が助言指導できること。当時、高さ制限の条例は、殆ど無かったと記憶しています。

○条例制定から20年以上経過しましたが、市民がどれだけ認識しているか疑問です。神社境内に、看板等があると良いと考えています。塩竈市は歴史も古く、千賀の浦の景観は平安時代にまで遡ります。これを守るのは、塩竈人の責務と考えています。



CATVでも収録・放送された

【風見教授】

○土井さんは、苦労されてきた方です。市民が矢面に立つのは、大変なことです。しかし、今は意識も変わり、行政の部署もあります。景観を真剣に議論できる日が来たことをお披露目の会でもあり、これから土井さんの活躍が広がると考えています。

【小野氏】

○平成元年から神社に奉職し、土井さんの市民活動を目の当たりにして、なんて神社に奉職したのかと大変驚きました。誇らしいことは、ご覧の景観があることです。また、境内や市内に多くの有形・無形文化財があり、深い歴史の中で文化財は育まれ、守り続け、次の世代に継承されるべきものです。



小野氏

○イベントの際、博物館で江戸時代後期の塩竈の風景を模写した絵をご覧いただきました。常設展示ですので、ぜひご覧いただきますようお願いいたします。過去から、現在の風景へ様変わりしていますが、これはある意味、必然的な部分かと。

○「文化的景観」は、ある意味、文化財の一つと考えます。近代の経済発展により、昔の風景が大分様変わりしていますが、文化的景観は、あくまでも日々の生業や営みから生じた景観です。人の営みを無しにすることはあり得ず、人の営みと同時に育まれて、また、残していくべき風景としての視点です。

○文化財に大変恵まれている塩竈は、平安時代から都人を魅了した風景があります。鹽竈神社の神様はお塩の神様で、製塩が盛んであり、遺跡も数多く残っています。塩づくりの際に、たなびく煙が千賀の浦や島々に流れながら幻想的に醸し出した風景、古の都人が魅力的に映ったと思慮します。今、その景色はありませんが、現在なりの塩竈の景色が残されていることもまた事実です。

○神社からの眺望、海からの神社の景色は、市民に欠かせないものの一つであり、PRポイントです。全国の参拝者をご案内していますが、「大変素晴らしい景色」との言葉をいただき、その後に「あの建物…」という言葉があります。今後も、景色を守るために、皆様の力をお貸しいただければと考えています。

【風見教授】

○神社に赴くと神聖な気持ちになります。鹽竈神社は、東北の中でも光る神社です。塩竈の景観は移り変わっており、今後どうしていきたいのかは、皆さんでしか出来ないことです。また、皆さんが10人仲間を集めると、10倍、100倍の大きなうねりになります。

【高田氏】

○2006年から、若者やアーティストを通して、様々な視点でまちに関わっております。人を資源と考え、まちづくりに動き、アート活動をしています。一昨年から、基調講演で紹介された津川さんと一緒に、浦戸諸島の豊かな地域資源を再発掘しています。



高田氏

○昨年から「塩竈市杉村淳美術館」に関わっています。美術館は、塩竈市公民館本町分室として、昭和25年に建築されました。ランドマークとしての象徴的なアーチの大講堂は、昭和32年の建築です。地域の記憶を蓄積し、まちの歩みや、ひとの営みを語っている貴重な建物です。景観を考える際に、まちの歴史・歩みを代弁する建造物が大切なことを実感しています。

○来場者も、木のぬくもりや人々の記憶が蓄積された建物に、馴染みある感覚というか居場所と感じているようで、その風景を求めて、人は出入りしているのかと。景観を考える上で、どの部分を蓄積していくのか実感しております。今後、まちのランドマーク、象徴をどう残していくのかを考えています。

●パネルディスカッション

【風見教授】

○ビルド・フルーガスと杉村淳美術館、彼女の手で素敵な欧州の建築のようになります。カナダ留学していたことから、外から塩竈を見ることも大事です。建物は、リノベーションにより内部が変化することもあります。しかし、良い資産に気が付かなければ、壊されて二度と作れないものは数多くあります。それでは、塩竈で一番残したい景観や風景、何が挙げられますか。建築的に何が大事なのかを教えてください。



パネルディスカッション

【大沼准教授】

○塩竈市は、規模の小ささが素晴らしく、濃密に詰まっている感じが魅力の一つです。市外の私が、この建物が一番好きという話はどうかと。逆に、この核がしっかりあることが重要です。小野さんが有形と無形の言葉を使いましたが、例えば、有形文化財は建物や書画など形あるもの。無形文化財は、踊りや神楽などですが、主役は、無形だと考えます。人の営みが「ハレ」で、それに対し、建築は人の営みを支える「ケ」、いわゆる背景です。背景をいかに整えていく活動をしています。



大沼准教授

○塩竈市には、活動されている方が多く人材は十分です。あとは、外から来た人たちがどうしていくか。また、背景を整えることは、景観に密接に関係します。そして、プロなりに、市民なりに各々の役割を果たすことが重要です。

○宮城県から岩手県にかけて、東京駅の建材としてのスレートや硯に使った雄勝石が屋根材にあります。現在、千数百件の民家調査で訪ね歩いています。それも「ケ」で、暮らしの背景として存在しており、そういう目で見ると、塩竈は気になるものが多く、素敵なもの点在しています。また、皆さんがそういったものにどう気付いたのか、その部分に興味があり、議論していきたい。

【風見教授】

○建築家さんは材料オタクで、塩竈石や野蒜石などが好きなのです。これは、実は大事なことで、ギリシャのミコノス島の真っ白い壁や石畳、また、イタリアのアッシジは赤、それぞれのまちの色があり、それは原材料から来ています。そう考えたときに、塩竈の色は、何でしょうか。



パネルディスカッション

【大沼准教授】

○(スライドで示した)神社の参道の石は、雄勝石ではなく稲井石と考えます。また、津波で流失した雄勝の昆布を干す小屋は、コールタールの黒色ですが、非常に重要でとても気になっています。何ということないモノや風景に、私はのめり込んでいく時があります。ということは、何が景観資源になるか分からないのです。「ただの小屋では？」という話ではなく、それらも大事にして欲しいです。

○神戸市の隣の須磨の事例ですが、診療所が廃屋になり、再生して文化発信拠点としての小さなカフェになりました。高田さんのようなアーティストが、巧くアレンジしていくと素敵になっていく。こうした資産は、多く塩竈にはあると考えています。

【風見教授】

○材料が大事ということ覚えていてください。地域由来を大事にすることは、アイデンティティです。建築家は、それを大事にする仕事であって欲しい。建築はとても楽しく、好きな建築物の形や材料などが、どこから来ているか、という視点で見ていただきたい。それでは、土井さんから、一番好きな塩竈の建築物や風景をお聞きます。

【土井氏】

○塩竈と建築への想いですが、父が左官業で小さい頃から、建築現場によく行きました。現場を仕切る設計監督に憧れ、幼いころから建築士になる想いがありましたが、市内で仕事をしようとは考えていませんでした。しかし、30歳過ぎに神社の裏坂から、色とりどりの屋根が風景として良くないと感じ、「統一された、良い景観ができないのか」という想いが、始まりです。

○事例として、震災である家の石塀が崩れましたが、良い素材でした。それを別の店舗で、石塀をスライスして貼ったら見事に復活しました。それを見た家の方は「もったいなかったなあ」と。塩竈には、建築に関連する素晴らしい素材と、稲井石使用の建物が多くあります。市内の一番の建物はあえて申し上げませんが、古い自然にある素材を使った建物、特に「石」「木」「土」を使用したものが非常に多いです。



パネラーの方々

【風見教授】

○建築や風景を支えているのは職人です。彼らがいないと無くなります。歴史ある文化がしっかりとしていると職人は生き残れますが、現在、岐路に立っています。そういう意味で、建築を守っていくのは、産業づくりだと考えるのです。また、塩竈らしい景観をつくるための産業、職業が必要ですが、どのあたりに注目していますか。

【土井氏】

○質問に上手く答えとなるか分かりませんが、職人技にとっても吃驚したことがあります。震災で、亀井邸の上部の飾りもの「洗い出し」が崩れ、復元は難しいと考えていました。ところが、市内の職人は巧みに修復してしまいました。

【風見教授】

○力の湧く話に感謝します。そういう話を聴きたかったのです。私も、家に大工の棟梁が出入りして、建築を目指しましたが、そういう人は多いです。また、職人文化を大事にするのは、重要です。塩竈にもまだ残っており、大切にしたいと願います。さて、高田さんは、アートを切り口に活動しています。アートと文化のまちづくりは、全国にあります。アートとまちづくりの大事な点についてお聞きます。

【高田氏】

○アートは、新たな価値創造ができる余白のあるジャンルです。決まりごとがある中で、そうではない人々が入り込める余地がある部分でアートを活用しております。様々な発想や方法などに、アートの可能性を感じています。美術大学での学びの背景と、まちとの関わりにあたり、先輩方のやり方も参考に、新たな可能性を自分たちの世代で創りたいと考え、塩竈でやりたいと思いました。



高田氏

【風見教授】

○余白はとても大事です。学校教育は点数をつけますが、私は、アートは点をつけられないと考えています。そういう意味でアートは、人の開放につながるのではないのでしょうか。

【高田氏】

○創造し続けることを許してくれる場所であり、人を資源と考えた時に、その場が必要であったわけです。

【風見教授】

○彼女のビルド・フルーガスと、杉村惇美術館は素晴らしいので、皆さんもぜひ訪れてください、アートは遊びで、遊びがない人間が、右往左往している時代です。アートは、子どもも大人も笑顔になります。楽しい笑顔のまちづくりをして欲しいと、常々思っています。



杉村惇美術館

○高田さんと私は、2012年の「TED(テッド)」のプレゼンスピーチに参加しています。私のプレゼンも良いですが、彼女のプレゼンも素晴らしいので、ぜひご覧ください。新しいトップランナーが出て嬉しく、そういう意味で、東北が注目されており、アートの切り口を皆さんに持って欲しいです。

○私の調査では、震災の津波で鎮守の森は流されず、ある神社は参道の手前まで津波が来たけど、縄文遺跡も同様です。驕ってないつもりでしたが、自然を制覇しようと考えてきたのかも。そうならないため、もう一度自然に還ることが大事です。神聖、精神性なものに触れて、自然への畏敬の念があり、まちづくりができると考えています。そういうことから、鎮守の森や神社に昔から興味があります。

○鹽竈神社にいただけで、エネルギーが増大している気がします。そういう意味で、守られる場であり、スピリチュアル的な部分が、日本人にはあると考えます。神社が、まちづくりに向かっていくときの不思議な力や、その大事さを聴きたいです。仕事をされていて感じる力や、何か塩竈に通ずる話があれば、難しい話かもしれませんが、ご紹介いただけたらお願いします。

【小野氏】

○鹽竈神社に限らない話ですが、全国 8 万といわれる神社に鎮守の森は必ずあります。神様が好み住みたい場所が、自然豊かな鎮守の森になります。震災時、鎮守の森で守られた地区も承知しています。そういう意味から、自然の力は我々に普段から力を与えて、だからこそ、自然を守るべきと考えられます。

○桜の世界的な大家、京都市の佐野藤右衛門(さの どうえもん)さんが「人工物は駄目だと、自然のものには敵わない」と仰っていました。自然の持つ力は、あるときには我々を守ってくれ、逆に人間は自然を守っていく必要があると考えております。守られた自然は後世に、次の世代、子供、孫、ひ孫の世代に受け継いでいくべきものです。視点を変えると、神社も自然そのものですので、境内の建物や鎮守の森も守り、後世に継承していく必要があります。

○鹽竈神社は 8 万坪の広大な境内地があり、桜や檜、杉など森林があります。環境破壊を防止するためにも、鎮守の森は必要です。日々、境内の植物を守ることに力を注いでおります。また、皆様方の協力をいただければと考えています。



小野氏

●質疑応答

【参加者】

○多賀城市からきました。市外の住民に対して、今日のシンポジウムや流鏝馬など神社のイベントが分からないときがある。掲示板などの周知や P R についてどう考えているか。

【小野氏】

○掲示板も含めて様々な手段により、幅広く地元から全国に行事の案内等をしていくのは当然ですので、努力していきます。

【風見教授】

○先ほど紹介した津川さんから、千賀の浦を愛する男として、質問などお願いします。

【参加者(津川氏)】

○塩竈市野田が実家で、第一小学校・中学校に通学していました。数十年ぶりに通学路を歩いたら、「はっ」とした風景がありました。小学校の近くの一本道から Y 字路に分かれている箇所です。子供の頃、「今日は右、今日は左へ行こうか」と思っていた、僕の「分かれ道」の言葉のイメージは、その風景だと大人になって気付きました。



チガノウラカゼコミュニティ津川氏

○風景は、子供の人生観などに影響を与えていることを、大人になって思いました。そのため「子供たちに風景を残す」こと、言い方は様々ですが、僕らは子供たちに良い風景を残す必要があります。例えば、鹽竈神社からの風景で、大人が子供の前で「これ、俺が好きな一番の風景だ」と発言したら、子供はそのまま引き継いでいきます。しかし、「あの建物がなあ」と聞いた子供はどう想って風景を引き継いでいくのでしょうか。



風見教授

○そういう意味では、美しい風景はそのまま美しく残していくのではなく、大人がどんな台詞で子供に引き継いでいくのかが、とても重要だと考えます。パネリストの皆さんはどう考えでしょうか。

【大沼准教授】

○子供の頃、東京にいました、大人になると環状八号線がこんなに狭いのかと感じました。「景」は、我々の心に映ってくる解釈でもある、ということでしょうか。その時々において「良し」とするケース、問題を感じる風景も含めて、子供に何を聞かせるかはとても大切です。

○問題ある風景を子供たちは受け止めています。その事実、私たちは単に、評論家として「良い」「悪い」を言うのではなく、「自分たちの風景なのだ」ということ、それをどう言うかということです。これは、子どもと一緒に感じれば良いのだと考えます。その辺は、またアートな世界になってきますけど。

【風見教授】

○宮沢賢治が語った「心象風景」と考えます。風景は、四季折々の季節や年月を重ねた一つの結晶なのです。自然風景があり、海岸線に人がいて、人のつくるものが出来ることにより、本当の風土になっていく。これは、人が関わるからであり、それは心を注ぐことです。心象風景は、マインドスケープといい、心の中に風景があるか、その心の風景をどう再現するか、という活動をされている方もいます。

○単に昔の皆さんの見た風景ではなく、その時、食べた駄菓子や音楽、祭ばやしの音なども、風景に入れることがあります。それは、宮沢賢治曰く「心象風景」と一緒であり、その風景を津川さんが言ったとおり、どう思うのか。例えば、「私はこのような風景を残していきたいのだ」と伝えていかないと、それが大事かどうかは分からなくなります。それでは、このような会に最後まで在席される方はなかなかいませんので、佐藤市長から一言よろしくお願いします。

【佐藤市長】

○私は、土木系大学を卒業し、宮城県で三十数年土木に携わってきました。今日は、建築と土木の違いを分かったというのが正直なところです。土木は、常に現実を追及しますが、建築家の皆様は理想を置いて向かっていくということです。

○具体的には、高度成長期時に地盤作りを担当し、当時の根拠は、「用」「強」「長」でした。何が必要で、それから強いもの、なるべく長持ちするもの、出来れば安価を徹底的に追及した公共事業を推進してきました。振り返り、我々が地域社会の中で潤いと誇りある生活を送るためには、「真」「善」「美」と言いましょうか。地域の中に溶け込み、人にやさしく、美しいという視点や観点がこれからは必要ではないかと。

○その思いから、景観について塩竈市がどうあるべきかという、大変重い命題を風見先生にお願いしており、このシンポジウムの中で、進むべき方向性を明らかにしていただけたと考えております。これからは、土木的や建築的な発想を越えて、市民の皆様がこのふるさと塩竈のまちづくりをどうしていくかを、積極的に発信していただくことが大切です。

【風見教授】

○佐藤市長には、上手くまとめていただきました。景観審議会や懇談会、景観の市民活動団体は、数多くあります。景観審議会の会場に市民が多く訪れていただくよう願っています。市長にも「景観まちづくり元年」にさせていただくよう、よろしくお願いします。



佐藤市長

●パネリストから市民に向けたメッセージ

【大沼准教授】

○技術者が創る現場の話と、市民が見つけて気が付くという話をしましたが、共有する部分は「育てる」ということです。景観は、問題に気が付いて、覚醒した方、全体をまとめ上げることが出来る方々です。市民全員がそうではありませんが、気が付いた方や価値を認め共有できる方々が、具体的に取り組んでいくことになります。景観計画を基盤にしなが、具体的には綺麗な建物を創る、緑を守ることなど、現場に生かして、私も参加していきます。

【土井氏】

○子供にどういう風景を残すか、大人は何をすべきか。我々は、子供が生まれ育ったまちのために、大人は何かをしながら、そのまちが評価されるよう、町内会活動でも結構で、何らかのやるべきことがあると考えております。この会場にいる方はそれだけ意識の高い方々でしょうが、大いに皆様と語り合いながら、塩竈の景観を守り育てていきたいと想っております。

【小野氏】

○具体的に景観を守るために、皆様をお願いしたいことの第一は、普段から自分の身近なところの清掃や美化、それらに尽力していただければと、よろしくお願いします。神社でも、毎日朝から清掃、私も朝から境内の草むしりをしており、神苑の美化に努めております。



パネリストからのメッセージ

【高田氏】

○地域に根差した景観、まちづくりにあたり基調講演の「地域を知る」「地域を創る」「地域を育む」を改めて考えました。海や千賀の浦の風景をただ眺めているだけではなく、何を愛でているのか、その風景の先に何があるのか。独自の風景や地形、歴史が背景にあることを知ることが大事です。その上で、何を残すべきか分かってくる。塩竈には「NPOみなとしほがま」「よみがえれ!塩竈」、「つながる湾プロジェクト」など、地域の財産を勉強する場があります。それらで、地域を学び、景観を考えてまいります。

【風見教授】

○景観を創るとことは、楽しいことですが、色々な課題はあります。様々な規制も作らなければならないかもしれない。大事なものは、インセンティブとメリットを生み出すこと、政策的なこと、最後には、市民の行動です。会長として、こういう形で毎回、シンポジウムを広げることにより、塩竈の景観を残していきたいという人が集まれば、良いと考えています。

○英国の都市計画の中で「スチュワードシップ」という言葉があり、自然に対する奉仕精神ともいいますか、育んでくれた自然と歴史があり、我々がいる訳で、その感謝の気持ち、地域を愛する人が増えていけば、地域は安泰です。市民の皆さんが本当に塩竈を好きだという気持ちを表してくれば、素晴らしい塩竈を百年後、千年後に残すことができます。

○我々は未来に対して責任があります。そういう意味で、この世代で良くしていく元年にしたいと思い、審議会のメンバーで頑張っていきますので、皆さんも仲間になっていただくようお願いします。



プレイベント 塩竈神社博物館展望台からの眺望



プレイベント 塩竈神社博物館見学



最後まで熱心に聴講された参加者